

防災教育・周知啓発ワーキンググループ 防災教育チーム (第6回) 議事要旨

1. 日時

令和3年4月28日(水) 15:30~17:00

2. 出席者

片田座長、畦地委員、大木委員、加藤委員、橋爪委員

関係省庁〔内閣官房(国土強靱化推進室)、消防庁、文部科学省(総合教育政策局)、国土交通省(水管理・国土保全局)、気象庁、赤澤副大臣、青柳内閣府政策統括官(防災担当)、内田官房審議官(防災担当)〕

3. 議題

- (1) 開会挨拶
- (2) 内閣府防災担当から説明
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

4. 議事要旨

冒頭、赤澤副大臣から、

「来年度から始まる第3次学校安全推進計画の柱に防災教育が位置づけられる。現時点では必ずしも、義務教育を終えた時点で全ての子ども達が災害から命を守る能力を適切に身につけているか保証されていない。」

「政策の方向性としては、全ての小中学校で地域の災害リスクや正常性バイアスなどの必要な知識を教える実践的な防災教育や避難訓練を実施する。幼保の段階から小中高とシームレスな防災教育、自助から共助の視点へ発展的に資質能力を身につける防災教育を実施する。さらに非認知能力を育む防災教育の効果の検証なども実施していきたい。」旨の挨拶があった。

次に、事務局が今までの議論を基にした提言素案について説明をし、その後、各委員からいただいた主なご意見は以下のとおり。

- 提言素案はこれまでの議論を踏まえて防災教育のあるべき方向について、一線で頑張っている先生方の意見を反映したのになっていると思う。
- 防災教育により災害に向かい合う姿勢を子ども達に教え、その中で子ども達が育まれる。10年後には彼らが地域の大人になり、もう10年後には親になり、文化としての礎

を作っていくことになる。時間がかかるようで、実は本質的に向かい合う姿勢を作っていくことが重要性をこの会議では議論できた。

- この会議では、より効果的に子ども達に生き抜く力を与えるような教育の方向性について議論できた。
- 新しい学習指導要領の柱の一つである「主体的・対話的で深い学び」は、防災教育においても重要である。提言素案では「主体的」という単語は幾つか用いられているものの、「対話的」という単語は少ないので、「対話的」についてもっと言及してはどうか。
- 釜石小学校の例について記載していただいたが、伝承というものは、ちょっとした言い回しで違ったものになってしまうため、後ほど修正意見を提出する。
- 自分の命を守ることが一番の大前提であることを強調してほしい。
- 防災教育の手引き・教材については、学校の先生方だけでは専門的なところが分からないため、大学の専門家等からの教材提供が欲しい。
- 道徳教育における「心のノート」（読み物や専門的な内容の記載と自分で書き込めるノート部分で構成された教材）のように、「防災ノート」を作成できたら良いと思う。
- 防災教育だけではなくて地域と学校の連携という広い意味で、指導主事のような一般行政と学校教育を結ぶ人材の配置が全ての自治体で必要ではないか。
- 最近、総合的な学習の時間が「考えなくてはならないから嫌い」という子どもがいる。文部科学省が「主体的・対話的」を求める時代背景がここにあると思う。防災教育は正しく自ら考え、想像をし、自分で課題を見つけて解決をしなくてはならない最たるもので、これに関する言葉は少し強目にしてはどうか。
- 防災教育は小学校からスタートではなく、生まれた時からスタートしていると思う。
- 道徳教育であれ、算数教育であれ、全ての教育はそれを通して人を育てていくものであり、それを非常に分かりやすく実践できるものの一つが防災教育である、という書きぶりにすると良いと思う。
- 「どうして」という問いのように、考えないと答えられない質問をする力「発問力」について、教育者の立場から照らして違和感がなければ、そのような言葉や類似する言葉を記載してはどうか。
 - ・ある自治体においては「教員の教える力を養うために防災教育を実施している」という話を聞いたことがある。
- 具体的にどのようなことをしたら良いのか記載している部分について、可能な範囲で誰が実施するのかを記載してはどうか。
- 防災教育の教材について、一度アーカイブ化する必要があると思う。
- 航空安全や医療安全では、テクニカルスキルとノンテクニカルスキルに分けて航空機事故や医療事故を分析している。このような視点を防災教育にも取り入れ、議論していくと良いと思う。